

目標・行動計画・成果指標 (P)

【目標】

- 1. 電力の安定供給
- 2. 地球環境への貢献
- 3. 適正な利益の確保
- 4. 地域社会への貢献

【行動計画】

- ①水力発電所のリニューアル
- ②施設の適切な維持管理
- ③小水力発電所の新規開発検討
- ④小水力発電に係る技術支援
- ⑤再生可能エネルギーの技術開発に向けた検討
- ⑥電力システム改革後の対応
- ⑦利益の活用検討
- ⑧FIT制度終了後の施設のあり方検討

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
供給電力量				
☆ 全発電計	毎年度 (目標値はR4)	139,346	119,825	MWh
(水力発電)		100,309	86,172	MWh
(風力発電)		30,774	24,773	MWh
(太陽光発電)		8,263	8,880	MWh
再生可能エネルギーを利用した発電によるCO2削減量				
☆ 全発電計	毎年度 (目標値はR4)	78,200	67,220	トン
(水力発電)		56,300	48,342	トン
(風力発電)		17,300	13,897	トン
(太陽光発電)		4,600	4,981	トン
年間故障停止時間				
☆ (水力発電)	毎年度 (目標値はR4)	220	9,505	時間
☆ (風力発電)		9,000	8,788	時間
☆ (太陽光発電)		250	1,803	時間

☆: 毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C)

「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ①水力発電所のリニューアル
 老朽化した水力発電所において、今後も安定した発電が可能となるよう順次再整備(リニューアル)
 ○**東部・西部事務所と本局の連携を密にしながら、工事間の調整や工程・現場管理を実施**
 (工事工程会議は月1回、本局、事務所及び受注者が出席)
 ⇒飯梨川第三発電所は、R4.4.2にFIT制度適用による運転開始
 ⇒三隅川発電所は、R5.4.2運転開始に向けスケジュール通りに進捗(各種試験、検査が終了し、R5.2から試運転)
 ○**第4次リニューアルの事業化**
 ⇒勝地発電所は、R5.12.2運転開始に向けてスケジュール通りに進捗(機器製作及び現場既設設備撤去工事中)
 ⇒八戸川第三発電所は、R6.3.2運転開始に向けてスケジュール通りに進捗(機器設計中)
 ○**労災事故防止・安全対策**
 ⇒労災事故防止のため、工事業者への指導及び安全管理を徹底
- ②施設の適切な維持管理
 ○**故障停止時間の低減**
 ⇒企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒R3.12から雷害により故障停止していた八戸川第一発電所2号機は、R5.2から運転再開
 ⇒勝地発電所は、出水時に取水口ゲートを遠隔で閉鎖した後、監視カメラでの確認により早期に運転を再開することで、設備の保護と発電停止時間短縮を両立
 ⇒高野山風力発電所7号機は、主軸受取替工事を実施しR4.10から運転再開
 (R3.9に主軸受の不具合が発生後、R4.8の主軸受取替工事開始までは出力制限運転を実施)
 ⇒ケーブル地絡事故により故障停止(東地区R4.9、西地区R5.2)していた石見空港太陽光発電所は、ケーブル取替後、運転再開
 ○高野山風力発電所の予防保全
 ⇒経年劣化による部品の故障について、使用実績から部品の交換周期を定め、故障発生前に交換することにより予防保全を実施し、稼働率が向上
 ○点検時の安全確保、管理の高度化
 ⇒ドローンの活用により、ダム湖や水圧鉄管等の巡視において、これまでと異なる視点での点検が可能
 ⇒目視確認が困難な場所での点検に内視鏡を活用
 ○**スマート保安技術を用いた保安力の維持向上と業務改善**
 ⇒全発電所、ダム通信基盤構築(カメラ視認及び通信不感地帯の解消)
- ③小水力発電所の新規開発検討
 ○**過去に事業化を断念した地点の再調査**
 ⇒1地点で再調査を実施中
 ⇒その他、過去に開発断念した候補地点についても再調査を実施したが事業費の上昇により採算がとれないため断念
- ④小水力発電に係る技術支援
 ○これまで培った知識や経験を活かし、県内市町村等の小水力発電の新規開発、リニューアル及び維持管理について助言支援
 ⇒これまで12件の支援を実施
- ⑤再生可能エネルギーの技術開発に向けた検討
 ○先駆的な実証実験事業等、技術開発に資する事業について情報収集
 ⇒県内や国、他県の情報を収集(水素エネルギー)
- ⑥電力システム改革後の対応
 ○公営電気事業経営者会議等を通じて情報収集
- ⑦利益の活用検討
 ○水力発電所リニューアル完了後の固定価格買取制度(FIT)による利益の活用を検討
 ⇒利益の一部を一般会計に繰り出し、地域振興部が再生可能エネルギー利活用総合推進事業(再生可能エネルギー設備等導入支援事業)を実施(15市町に支援)
- ⑧FIT制度終了後の施設のあり方検討
 ○FIT終了後の施設の状況について電源種別毎に検討
 ⇒関係機関を通じて、市場動向、脱炭素情勢等の情報を収集
 ⇒風力発電所のリプレースについて民間事業者と意見交換
 ⇒風力発電所について発電所更新概略設計業務の結果を基に今後の方向性を検討

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・リニューアル工事の着実な進捗管理
- ・工事の安全管理を徹底し、継続して注意喚起する
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・取替工事後は通常運転
- ・取替工事後は通常運転
- ・継続して実施
- ・機器操作可能な人材の育成
- ・活用範囲の拡大
- ・調査の継続実施
- ・継続して実施
- ・情報収集活動を継続
- ・情報収集活動を継続
- ・利益の活用方法については知事部局と検討
- ・情報収集活動を継続
- ・今後の方向性を令和5年度に決定



(1) FIT運転開始(飯梨川第三発電所)



(2) 発電機修理中(八戸川第一発電所2号機)



(3) 主軸受取替工事(高野山風力発電所7号機)



(4) 電力ケーブル交換(石見空港太陽光発電所)

工業用水道事業

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
 1. 工業用水の安定供給
 2. 経営の改善
- 【行動計画】**
 ①施設の長寿命化
 ②施設の適切な維持管理
 ③新規需要の開拓
 ④経費の縮減

【成果指標】

指 標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
給水制限日数				
☆(飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆(江の川)		0	0	日
売水率				
(飯梨川)	R7	60	54.7	%
(江の川)		56	59.5	%
売水先の数				
(飯梨川)	R7	34	28	社
(江の川)		4	4	社
送水管の耐震化延長(未供用区間を含む)				
(飯梨川)	R7	6,453	6,009	m
(江の川)		6,649	6,649	m
送水管の耐震化率				
(飯梨川)	R7	31.5	30.4	%
(江の川)		90.2	90.2	%
一般管理費の縮減(H26年度決算比)				
(飯梨川)	R7	△10	3.6	%
(江の川)		△10	107.3	%

☆:毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」:取組内容、「⇒」:結果、「・」:課題

- ①施設の長寿命化**
 ○施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(飯梨川)平成30年3月策定
 ⇒(江の川)令和2年2月策定
○中期事業計画に基づく施設の大規模修繕・更新の計画的な実施
 ⇒飯梨川は国の補助事業を活用し、事業を実施
 ・補助事業制度は、単年度毎に採択が必要な強靱化事業に限定
 ・補助金の予算枠が不十分
 ・事業進捗に伴う工業用水道料金上昇の懸念
- ②施設の適切な維持管理**
 ○企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒事故、故障による給水制限はゼロ
【共通】
○故障の迅速な復旧
 ⇒故障対応記録を電子化し、故障発生時にデータ検索により故障復旧時間を短縮
【飯梨川】
○渇水時は布部ダムと山佐ダムから効率的に取水し、下流の逆調整池で都市用水と農業用水に適切に振り分け調整を実施
○渇水時に降雨があった場合は、速やかに両ダムを貯水運用に切替
○農業水利業者との取水運用調整及び管理者(安来市)との調整
 ⇒渇水時においても給水制限することなく安定した取水を実現
○渇水時における需要家との情報交換
 ⇒都市用水会議の開催により渇水の状況を周知
 ○大雨により原水濁度上昇が予測される場合は、流入弁を適切に調整し濁水の流入を最小限に抑制し、需要家への状況連絡、濁度上昇が事業に影響がある需要家と情報交換を随時実施
 ○点検時の安全確保、管理の高度化
 ⇒ドローンの活用により、地上から視認困難な集水埋渠等の施設点検を実施
- ③新規需要の開拓**
【飯梨川】
○島根県商工労働部からの企業の施設増設の情報を元に、工水利用についての意向調査を実施
 ⇒既存1社で増量(R4.4から)
【江の川】
 ○島根県商工労働部、江津市商工観光課等と連携し、豊富で良質な工業用水をPR
- ④経費の縮減**
 ○ウェブ会議システムの活用
 ⇒使用料、旅費等の経費削減

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・可能な限り補助事業を活用
- ・補助制度について、予算枠の拡充や内容の見直しを国に要望
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・渇水時には同様に対応
- ・渇水時には同様に対応
- ・継続して実施
- ・渇水時には同様に対応
- ・高濁度原水が流入した際には、同様に対応
- ・活用範囲を拡大
- ・工水の需要を情報収集し、新規需要を開拓
- ・引き続き用水型企業の誘致活動を継続
- ・引き続き縮減に努める



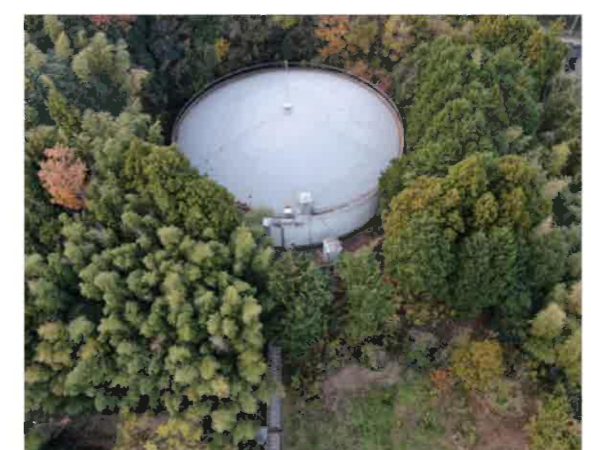
(1)逆調整池転倒ゲート更新工事(東部事務所)



(2)着水井清掃(今津浄水場)



(3)渇水時の布部ダム



(4)ドローンによる荒島配水池点検(飯梨川工水)

水道事業

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
 1. 水道用水の安定供給
 2. 安全で良質な水質の維持
 3. 健全経営の確保
 4. 給水量減少への対応
- 【行動計画】**
 ①施設の長寿命化
 ②施設の適切な維持管理
 ③適切な水質の検査・監視と運転管理
 ④水安全計画の策定と実践
 ⑤経費の縮減
 ⑥水道法改正への対応

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
給水制限日数				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
水質目標値を達成しなかった日数				
浄水池濁度(0.1度以下)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
浄水池色度(2.0度以下)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
末端残留塩素濃度(0.1~0.5mg/L)				
☆ (飯梨川)	毎年度	0	0	日
☆ (斐伊川)		0	0	日
☆ (江の川)		0	0	日
送水管の耐震化延長(未供用区間を含む)				
(飯梨川)	R7	7,598	5,048	m
(斐伊川)		89,060	89,060	m
(江の川)		15,432	15,432	m
送水管の耐震化率				
(飯梨川)	R7	53.1	35.2	%
(斐伊川)		81.8	81.8	%
(江の川)		98.0	98.0	%
一般管理費の縮減(H26決算比)				
(飯梨川)	R7	△10	△10.5	%
(斐伊川)		△10	△10.4	%
(江の川)		△10	△2.0	%

※1. ☆: 毎年度目標値
 ※2. 水質目標値は内部管理目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

- ①施設の長寿命化**
 ○施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(飯梨川)H31.4 施設管理基本計画策定、R2.2 中期事業計画策定
 ⇒(江の川)R2.2 施設管理基本計画及び中期事業計画策定
 ⇒(斐伊川)R5.3 施設管理基本計画の策定
 ・施設管理基本計画に基づいた「中期事業計画」が未策定
 ○中期事業計画に基づく施設の大規模修繕・更新の計画的な実施
 ⇒送水管路更新事業について飯梨川水道施設管路更新計画策定業務を実施
 ・補助金の予算枠が不十分
 ・事業進捗に伴う水道料金上昇の懸念
- ②施設の適切な維持管理**
 ○企業局電気工作物保安規程(電気事業法に基づき定める保安基準)で規定する巡視、点検、作業の遵守
 ⇒事故、故障による給水制限はゼロ
【共通】
 ○故障の迅速な復旧
 ⇒故障対応記録を電子化し、故障発生時にデータ検索により故障復旧時間を短縮
【飯梨川】
 ○濁水時は布部ダムと山佐ダムから効率的に取水し、下流の逆調整池で都市用水と農業用水に適切に振り分け調整を実施
 ○濁水時に降雨があった場合は、速やかに両ダムを貯水運用に切替
 ○農業水利水者との取水運用調整及び管理者(安来市)との調整
 ⇒濁水時においても給水制限することなく安定した取水を実現
【斐伊川】
 ○松江市福原町の漏水事故対策
 ⇒本復旧工事がR4.6に完了し、本管に送水切替
 ・道路管理者(松江市)への地すべり対策要請
- ③適切な水質の検査・監視と運転管理**
 ○送水末端の水質(残留塩素濃度、濁度、色度)監視により今後の水質変動を予測し、次亜塩素酸ナトリウム注入量を適宜調整
 ⇒目標残留塩素濃度(0.1~0.5mg/L)を維持
○適切な水質管理
【飯梨川、斐伊川】
 ⇒大雨により原水濁度上昇が予測される場合、次の対応により浄水の濁度を目標値以下に抑制(水質悪化する過池の貯水入替、原水濁水質ピークカット、沈砂池内濁水排水、二段ろ過方式)
【斐伊川】
 ⇒高濁度対応マニュアルを各受水団体に説明(R4.7)
 ⇒マニュアル策定(R4.10)
 ⇒マニュアルに基づく訓練実施(R4.10) ※コロナの影響で単独実施
【江の川】
 ⇒原水濁度上昇時に適切な凝集剤注入により、濁度を目標値以下に抑制
- ④水安全計画の策定と実践**
 ○水安全計画(H29年度に策定)の確実な実行
 ⇒3年毎の計画見直しの実施、計画の妥当性の確認と実施状況の検証
- ⑤経費の縮減**
 ○ウェブ会議システムの活用
 ⇒使用料、旅費等の経費削減
- ⑥水道法改正への対応**
 ○水道設備台帳の整備、活用
 ⇒施設管理台帳システム整備(R2年度未完了)
 ○水道広域化推進プラン策定(R5.3)
 ⇒市町村課、薬事衛生課と連携し、県内の水道事業の多様な広域化の推進に向け、当面の具体的取組等を策定

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・「中期事業計画」の検討
- ・可能な限り補助事業を活用
- ・補助制度について、予算枠の拡充や内容の見直しを国に要望
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・濁水時には同様に対応
- ・濁水時には同様に対応
- ・継続して実施
- ・道路管理者による地すべり対策業務着手予定
- ・継続して実施
- ・高濁度原水の流入を予測した際には、同様に対応
- ・マニュアルに基づく訓練を継続して実施し、検証結果をマニュアルに反映
- ・高濁度原水が流入した際には、同様に対応
- ・継続して実施
- ・引き続き縮減に努める
- ・中期事業計画に基づく送水管布設替に応じた時点修正
- ・プラン実施に向けた取組について、引き続き検討を実施



(1) 送水ポンプ オーバーホール工事(江津浄水場)



(2) ろ過池砂削り工事(三代浄水場)



(3) 濁水時の山佐ダム



(4) 全停電作業(今津浄水場)

宅地造成事業

目標・行動計画・成果指標 (P)

【目標】
1. 工業団地の分譲促進

【行動計画】
①工業団地の分譲
②江津地域拠点工業団地の造成検討
③進出企業との情報交換
④県・市町村共同工業団地整備事業への対応

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
分譲率				
(江島)	R7	100	100.0	%
(江津地域拠点)		87	66.0	
分譲面積				
(江島)	R7	—	16,184	㎡
(江津地域拠点)		84,590	48,138	
工業団地整備面積	R7	98,464	136,711	㎡

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C)
[O]: 取組内容、「⇒」: 結果、「・」: 課題

①工業団地の分譲
〔江島〕
○江島工業団地(H30完売)について、松江市への緑地等移管手続の実施
⇒松江市と譲渡契約を締結
○県道区域内にある公共緑地を道路管理者(松江県土整備事務所)へ管理移管
⇒道路管理者と協議のうえ、伐採・整地に係る方針を決定
〔江津地域拠点〕
○**島根県商工労働部、江津市商工観光課等と連携した分譲促進**
⇒**商談中(B工区)1件**
○道路付替工事後の廢道敷地の払い下げ
⇒市道交差点部改良・舗装工事を施工(R4.5~R4.12)

②江津地域拠点工業団地の造成検討
○**第三期造成事業の着手検討**
⇒**第三期造成事業の着手決定**

③進出企業との情報交換
○団地立地企業連絡協議会(年2回開催、事務局:江津市)において、情報交換を実施
⇒団地連絡協議会に参加(第1回6/3、第2回10/25)

④県・市町村共同工業団地整備事業への対応
○島根県商工労働部と連携

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・継続して実施(所有権移転登記実施)
- ・伐採業務の委託
- ・**引き続き分譲促進に努める**
- ・譲渡契約の準備(敷地内の江津市所有地及び契約)
- ・**造成に向けた準備(用地測量等の実施)**
- ・継続して実施
- ・継続して検討



江津地域拠点工業団地



現況

個別的取組①

目標・行動計画・成果指標 (P)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 【目標】 | 【行動計画】 |
| 1. 危機管理体制の強化 | ①危機管理体制の強化 |
| 2. 技術力の継承と人材の育成 | ②技術力の継承 |
| 3. 県民理解の促進 | ③人材育成の取組 |
| 4. 地域社会への貢献 | ④わかりやすい情報発信 |
| | ⑤施設見学・出前講座の充実 |
| | ⑥施設周辺地域への対応 |
| | ⑦森づくり事業の実施 |
| | ⑧地域活動への参加 |

【成果指標】

指標	目標と実績			
	達成年度	目標値	実績	単位
危機管理訓練の回数				
☆	毎年度	8	12	回
業務に関する技術資格の取得数				
	R7	累計 80	39 (175)	件
ホームページアクセス数				
☆	毎年度	15,000	35,379	件
施設見学・出前講座の参加者数				
☆	毎年度	1,600	90	人
森づくり事業(植栽)箇所数				
☆	毎年度	5	6	箇所
地域活動への参加件数				
☆	毎年度	18	8	件

☆:毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」:取組内容、「⇒」:結果、「・」:課題

- ①危機管理体制の強化**
 ○危機管理訓練の早期実施
 ⇒(合同)5/10ダム管理演習、6/22合同危機管理訓練、10/31ダム地震津波対策訓練、11/16~18 日水協合同防災訓練
 ⇒(東部)4/21地震対応訓練、10/21高濁度対応訓練、12/9ドローン空撮訓練
 ⇒(西部)6/8高濁度対応訓練、6/9取水場オイルフェンス設置訓練、11/15・25送水管路漏水事故受水団体共同訓練、12/5三隅川リニューアル工事防災事故対応訓練
- 原子力災害時の対応策の策定**
 ⇒R4年7月に企業局独自の「**島根県企業局原子力災害時行動計画**」を策定
 ⇒R5年3月に「**原子力災害時の対応マニュアル**」を策定
- ②技術力の継承**
 ○再任用職員による技術継承
 ⇒再任用職員によるOJTの実施
○リニューアル工事を利用した技術力継承
 ⇒三隅川発電所リニューアル事業の工事記録の映像編集製作業務を委託(R4.8)
○電気工作物保安規程に定める教育(保安研修)の実施
 ⇒中電プラント(株)の講師による電気事故防止講習の受講
 ○保安のスマート化
 ⇒ドローン操縦者の育成
- ③人材育成の取組**
 ○業務に関する技術資格の取得
 ⇒ドローン操縦者講習13、小型2級船舶操縦士2、フルハーネス型安全帯特別教育2、低圧電気特別教育3、基本情報技術者1、特別管理産業廃棄物責任者講習1、特定化学物質作業主任者技能講習1、刈払機安全衛生教育1、有機溶剤作業主任者技能講習1、第三級陸上特殊無線技士2、太陽光発電設備メンテナンス講習1、**第1種ダム水路主任技術者1**、労働安全衛生特別高圧・高圧電気講習4、準中型自動車運転免許教習3、**第二種電気主任技術者1**
 ○その他研修等の実施
 ⇒新任者研修(4/28)、公営企業会計システム研修(7/13)、NOMA地方公営企業の消費税研修(6/20、21)
 新任者企業会計オンデマンド研修(10/11~10/23)、12/15、21電気安全ビデオ研修
- ④わかりやすい情報発信**
 ○企業局通信発刊
 ⇒第7号(7月)、第8号(1月)を発刊し、県内市町、取引企業及び商工関係団体等へ送付
 ・R4年度で廃刊
○テーマソング
 ⇒島根県の遺島使を務めるローカルアイドルグループ「Flood Lyrics」を起用し、テーマソングと事業紹介の動画を配信
○テレビ・ラジオ広報
 ⇒山陰放送「Bang+」(テレビ)及び「午後はドキドキ」(ラジオ)の番組内で事業紹介(6月、9月、12月、3月)
 ⇒FM山陰「SAN-IN MUSIC FILE」の番組内で事業紹介(9月)
○SNSによる認知度向上業務委託
 ⇒地元アイドルを起用したPR動画(2本)を作成し、配信(12月、3月)
○SNS(Facebook、Twitter、Instagram)の運用
 ⇒Instagramの企業局公式アカウントを新たに開設(9月)
 ⇒SNSへの投稿回数:91回(Facebook 34回、Twitter 30回、Instagram 27回)
 ○ダムカード
 ⇒ダムカードの配布を再開(5月)

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

- ・継続して実施
- ・**対応訓練による効果の検証を実施**
- ・継続して実施
- ・**工事記録を利用した職員研修の方法を検討**
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・継続して実施
- ・**紙媒体以外の方法(SNSやホームページ等)でタイムリーな情報発信を実施**
- ・**活用範囲の拡大**
- ・**継続して実施(R5年度は年3回のテレビ放送を検討)**
- ・既存のPR動画の活用方法を検討
- ・継続して実施



(1)三隅川リニューアル工事防災事故対応訓練(西部事務所)



(2)保安研修



(3)ドローン空撮訓練(飯島配水池)



(4)ローカルアイドルグループ「Flood Lyrics」を起用したテーマソングと事業紹介の動画を配信

個別的取組②

目標・行動計画・成果指標 (P)

- 【目標】**
- 危機管理体制の強化
 - 技術力の継承と人材の育成
 - 県民理解の促進
 - 地域社会への貢献
- 【行動計画】**
- 危機管理体制の強化
 - 技術力の継承
 - 人材育成の取組
 - わかりやすい情報発信
 - 施設見学・出前講座の充実
 - 施設周辺地域への対応
 - 森づくり事業の実施
 - 地域活動への参加

【成果指標】

指標	目標と実績			単位
	達成年度	目標値	実績	
危機管理訓練の回数				
☆	毎年度	8	12	回
業務に関する技術資格の取得数				
	R7	累計 80	39(175)	件
ホームページアクセス数				
☆	毎年度	15,000	35,379	件
施設見学・出前講座の参加者数				
☆	毎年度	1,600	90	人
森づくり事業(植栽)箇所数				
☆	毎年度	5	6	箇所
地域活動への参加件数				
☆	毎年度	18	8	件

☆:毎年度目標値

取組内容 (D) / 取組の結果・課題 (C) 「○」:取組内容、「⇒」:結果、「・」:課題

- ⑤施設見学・出前講座の充実**
○施設見学・出前講座
 ⇒新型コロナウイルス感染防止のため、施設見学と出前講座は休止中
 ⇒西部事務所の再エネツアーは休止中
 ⇒小学校への教材貸出は東部事務所5校、西部事務所5校

令和4年度 施設見学等実績 (人)

	大人	子供	計
施設見学	35	55	90
出前講座	0	0	0
再エネツアー	0	0	0
合計	35	55	90

- ⑥施設周辺地域への対応**
 (大規模な工事を行う際、地元関係者に理解と協力を得る)
○三隅川発電所リニューアル工事において、工事の説明を実施
 ⇒工事進捗状況のチラシを配布(毎月)
 ⇒地権者への説明(26回)
- ⑦森づくり事業の実施**
 ○NPO法人等に委託して実施
 ⇒4/29安来市広瀬町(クヌギ250本):広瀬町ふるさとの川浄化実行委員会
 ⇒10/4益田市柏原町(クヌギ・コナラ 200本)NPO法人アンダンテ21
 ⇒10/28大田市三瓶町(スギ 150本)NPO法人緑と水の連絡会議
 ⇒11/12雲南市木次町(コハウチワカエデ 50本)NPO法人さくらおろち
 ⇒11/19出雲市佐田町(コハウチワカエデ 35本、ヤマザクラ 5本)NPO法人もりふれ倶楽部
 ⇒3/5邑南町矢上(ヤブツバキ300本、クヌギ 10本)樹冠ネットワーク

- ⑧地域活動への参加**
 ○河川等周辺清掃、公共施設周辺清掃等
 ⇒7/16飯梨川河川清掃17名、7/15さくらおろち湖清掃5名、7/20江津工業団地クリーン作戦21名、9/10さくらおろち湖清掃4名、9/28斐伊川河川清掃5名、10/5飯梨川河川清掃14名、南庁舎エコクラブ13名、3/8江津工業団地クリーン作戦18名
○ダム施設を写生会場として提供
 ⇒10/19三成ダム写生会(三成小学校)

結果・課題に対する今後の対応等 (A)

・施設見学及び出前講座の再開は、感染状況等を見ながら判断
 ・再エネツアーの再開は、感染状況等を見ながら判断

・引き続き丁寧な説明を実施

・事業の着実な実施

・継続して実施



(1)三成発電所見学(奥出雲町立鳥上小学校)



(2)三成ダム写生会(三成小学校)



(3)森づくり事業(雲南市木次町)



(4)江津工業団地クリーン作戦